

2020年9月27日(日)
福山バプテスト教会主日家庭礼拝の手引き

1 礼拝の進め方

礼拝プログラムは次のとおりです。このプログラムに沿って、賛美を献げ、祈り、聖書を読みましょう。宣教の部分は説教を読みましょう。

2 礼拝プログラム

聖書1 旧約聖書 イザヤ書45章18～22節

賛美 新生521 キリストには替えられません

(または) 新生301 いかなる恵みぞ

個々の祈り *自由にお祈りを献げましょう

主の祈り

聖書2 旧約聖書 イザヤ書46章1～4節

宣教 「神様に背負われて」

献げもの 新生658 このささげものを(B)又は新生51 かみさまありがとう

*賛美の後に、感謝の献げものとお祈りを献げましょう

賛美 新生讚美歌 674 父み子 聖霊の

黙 禱

3 説教「神様に背負われて」

■プリ・キンダーガルテン・スクール 私事で恐縮ですが。先日、向山牧師の助けを借りて、インドのクリスチャン施設プリキンダーガルテンスクールへ日用品等を送りました。この施設は、私たち日本バプテスト連盟女性連合が支援しているインドの貧しい子供たちのための学びの収容施設です。世界的コロナ禍の中、現在インドはアメリカに次いで感染者が急増しています。この施設の責任者 S.K. モハンティ師より「石けんとタオルを送ってほしい」との要請があり、何とか助けになればと祈りつつ、石けん40個とタオル、衣類等を段ボール2箱に詰めて送りました。去年は大型ハリケーンによる被災後のため段ボール3箱の衣類を送りました。日本から届いた衣類や日用品等は施設の子供たちとご家族だけではなく、近隣地域の貧しい方々にも配布されて大変喜ばれているそうです。ヒンズー教の根強いインドでは、少数派のキリスト教会やクリスチャン達への迫害・攻撃があ

ちこちで起きているそうですが、この施設と近隣地域ではとても良い関係が築かれているとのこと。また多くの子供たちがイエス様を信じて巣立っているとのこと。すばらしい神様の御業を讃えます。私共福山バプテスト教会も、インドでの神様の素晴らしい御業に与らせていただいていることを覚えて、これからも共に祈っていきましょう。

■ヒンズー教とカースト制度 さて、インドと言えば根強いヒンズー教とヒンズー教によって作られたカースト制度で有名です。インド国民の約80%がヒンズー教徒でクリスチャン人口は約2、3%です。ヒンズー教は約3500年以上の歴史があり、インドという国はヒンズー教とカースト制度によって国と国民が作られてきたと言っても過言ではないと思います。ヒンズー教によって作られたカースト制度は上位から下位まで4つのカーストからなる身分制度です。世襲制で、生まれた時のカーストによって個人の一生が決まります。カーストの変更やカーストの違う人との結婚は不可能です。そして、インドにはこのカーストに入れられていないカースト外の多くの人々がいます。一人の人間としての権利が与えられていない人々です。不可触民、ダリット（壊された民）と呼ばれ、インドの最底辺で、教育を受ける権利もなく汚物処理などで生計を立てながら最低限の生活さえも与えられていない人々です。人間の価値を身分によって決める宗教、人の尊い命を自分たちで作った制度によって差別する宗教。ヒンズー教は人間の手によって作られた宗教です。人間の手によって作られた宗教を聖書は偶像、偶像礼拝と言っています。アダムとエバの罪以来、宇宙万物の造り主、真の唯一の愛の神様に逆らい続け罪に堕ちて死んだ存在となった私たち人間。罪と暗闇の中で、自分の都合の良いように自分勝手に私たち人間の手で作られ、考え、神様の位置に据え付けたもの、それが偶像であり偶像礼拝です。

■偶像の実態 唯一の愛の神様に逆らい続け、偶像礼拝に陥ったそんな私たちに、愛の神様はなんと呼び掛けておられるのでしょうか？ 神様に聴いていきましょう。先程読んでいただいたイザヤ書46章1～4節をお開きください。1～4節の短いみ言葉の中に、人間が作った偽にせの神、偶像と、真の唯一の愛の神様との違いが明確に対比されて書かれています。最初の1～2節は偶像について。3～4節が真の愛の神様についてです。まず1節から2節。

46:1 ベルはかがみ込み、ネボは倒れ伏す。彼らの像は獣や家畜に負わされ／お前たちの担いでいたものは重荷となって／疲れた動物に負わされる。

46:2 彼らも共にかがみ込み、倒れ伏す。その重荷を救い出すことはできず／彼ら自身も捕らわれて行く。

ベル、ネボという偶像の名前が出てきます。ベルは当時の大国バビロン王国の最高神で、ネボは「ベルの息子」という意味だそうです。バビロン王ネブカデネザルの名前にもこのネボの名が使われています。諸国間の戦いの歴史の中で、当時戦争は神々の戦いだ

考えられていました。大方の戦いでは、それぞれが、自分たちの神々を戦場に運び入れました。しかし所詮、人間によって始めた戦争は人間によって敗北させられ、人間の手で破壊されていきます。当時の強大国バビロンとて同じです。戦争に勝つどころか敗走させられ多くの命が犠牲となり、たとえ生き残ったとしても負傷し、命からがら疲れ果てて、歩く力もない。頼みとしていた偶像の神々は、助けになるどころか何の役にも立たず、かえって重荷、束縛となり、動物に背負わせても共に疲れ果てて倒れ、ついには捕虜となり略奪されていく。これが偶像の実態であり、偶像を作り礼拝する者の結末だと、神様は言っておられます。

■わたしに聞け　そして3節と4節をご覧ください。

46:3 わたしに聞け、ヤコブの家よ／イスラエルの家の残りの者よ、共に。あなたたちは生まれた時から負われ／胎を出た時から担われてきた。

46:4 同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで／白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。

「わたしに聞け」と愛の神様からの呼びかけです。「わたし」こそ唯一の真の神なのだ。3節と4節の中に「わたし」という言葉が4回出てきます。神様の真実さと愛がほとぼしるような呼びかけです。わたしが産んだ私の愛するヤコブの子らよ、イスラエルのすべての子らよ。「わたし」こそが唯一の神、あなた方の造り主だ、なぜ神でもない自分たちの手で作った偶像に聞こうとするのか。なぜお金や名誉や学歴、地位や身分に聞き頼るのか。イスラエルの家よ。福山バプテスト教会の群れよ。愛する子らよ、偶像と共に滅びてはならない。「わたしに」聞きなさいと、まず神の国と神の義を第一に求めなさいと。

■神様に背負われて　これは神様からの強い愛の命令です。なぜこれほどまでに徹底して、神様は罪人の私達を愛してくださるのか。その答えは4節bをご覧ください。「あなたたちを造った」ゆえです。愛の神様は、目的をもって私達一人一人を造り、この地上に生まれさせてくださいました。神様の目的なしに造られた人間はだれもいません。全員もれなく完全な一人一人です。上下も差別も不完全さも一切ありません。一人一人が神様の目に高価で尊い存在です。造り主愛の神様は、ご自身で造ったすべての一人一人に対して責任を負われる方です。どれほど私たち人間が神様に逆らい、悪態をついても神様の愛はびくともしません。私達に命を与え、母の胎で形造り、生まれさせ、養い、成長させ、多くの危険から守ってくださり、生活に必要なすべてのものを与えてくださり、家族を与えてくださり、私たちがどのような状況にあっても、若い時も、白髪となって年老いても、寝たきりになっても、私達を守り支えてくださっているのが神様です。被造物の私たち人間には何の力もありません。神様が与えてくださるのでなければ、1分1秒とて自分の命を永らえさせることはできません。全く無力な私達です。神様に背負われて、今日まで生

かされてきたのです。そして、無力な私たちのために私達に理解できるように示された神様の愛が、イエス・キリスト様の十字架です。神様自ら人間の形をとり、私たちの間に来てくださいました。そして全く罪のない神イエス様が私たち人類のすべての罪を背負って身代わりとなって十字架で死んでくださいました。イエス様の死と復活によって私たちのすべての罪が赦されたのです。徹底した神様の愛。愛の神様によって最も大切なものとして造られ日々生かされている私たち一人ひとり。最も大切なものを運ぶ時、最も大切なものは胸にしっかり抱いて、または自分の背中にしっかりくくりつけて背負います。私たちの日々の歩みも一生涯の歩みもすべて愛の神様の背にしっかり結ばれ背負われての歩みです。喜びと感謝をもって神様の愛に応えていきましょう。

お祈りしましょう。